

「大激動の時代をよく生き抜いてきたと思う」。公明党の竹内譲衆院議員（比例近畿）Ⅱ写真Ⅱは、11月に結党50年を迎える党の歴史を振り返り、感慨深げ。

自身が国会議員に初当選した1993年以降、公明党は非自民の細川連立激動の時代生き抜いた

政権に加わり、その後合流した新進党も解党。今度は対決した自民党と連立を組み、政権

ロビー



の一翼を担うようになった。この間、衆院選で2回落選し、京都市議を2期務めるなど「まさに激動だった」。

99年に組んだ自民党との連立はすでに12年。「自民の補完勢力」と批判もあり、7月の集団的自衛権の閣議決定をめぐり党の存在意義を問われた。

「福祉と平和の党」をどう具現していくのか。当面、消費税増税に伴う軽減税率導入をめぐり自民と激論が予想される。党税制調査会副会長として「思いやりの政治実現で譲れない」と軽減税率を勝ち取る構え。

（相見昌範）